

5 学生サークル Marble と盛岡市が協働でジェンダー平等を目指す性の多様性促進パンフレット作成

岩手県立大学盛岡短期大学部 准教授 熊本早苗

該当する原則

原則 10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

1. 概要

本学の性の多様性の理解促進を行う学生団体Marble（マーブル）は、盛岡市の公募型協働推進事業（テーマ設定型事業）に応募し、「性別や性的指向、性自認等についての冊子作成プロジェクト」事業として採択された。本事業は、盛岡市が社会的・地域的な課題と考えるテーマに基づき行われるもので、市民活動団体等と市が協働で実施することにより、高い成果が期待できる事業として助成金交付につながった。盛岡市の男女共同参画室と協働で、LGBTQ+等、性別や性的指向、性自認等についての啓発冊子を作成し、SNS等を活用して広く周知することで、性の多様性についての理解と関心を高め、性的マイノリティに対する差別や偏見を解消する一助とした。

学生たちは「一人ひとりの性は、どれ一つとして同じものではなく、唯一無二の個性」であることを伝え、多くの人に性の多様性を知って、ジェンダーやセクシュアリティに関する用語を分かりやすく解説や図式化し、なおかつ、ハラスメントや無意識の差別、性的マイノリティへの理解促進について若者目線でパンフレットを作成した。作成したパンフレットは、盛岡市内の公共施設に配架していただいた他、盛岡市の公式ホームページからダウンロード可能とした。コロナ禍においてオンライン発信は効果的であり、QRコードを読み取る形式の無記名アンケート結果から、目標は充分達成されたと検証できた。

2. 活動内容

性の多様性をさらに理解すべく、毎週の読書会では1冊の本やメディア媒体（本と音楽の融合作品）、映画／ドキュメンタリー映像等を議論の中心に据え、自分たち自身の思考のプロセスや物の見方、捉え方、理解の仕方をも見直すディスカッションを重ねていった。性の多様性について発信している他団体ともSNS上で交流しながら、学びや実践を少しずつ重ね、その成果を『好きな色で生きる』というパンフレットに集約した。タイトルには、1人ひとりが持つ個性、ひとつとして同じ色のないグラデーションのようなもの、それが性の在り方であるとする学生たちの思いが込められている。性的マイノリティ（多数派）も、性的マイノリティ（少数派）も、人間として平等であり、すべての命は尊く、それぞれが「自分の好きな色」（自分が望む性自認Gender Identityや性的指向Sexual Orientation）を大切にしていけるようにという願いが込められている。

3. 成果

パンフレット配布後のアンケート結果から、主に次の3点の成果が検証できた。

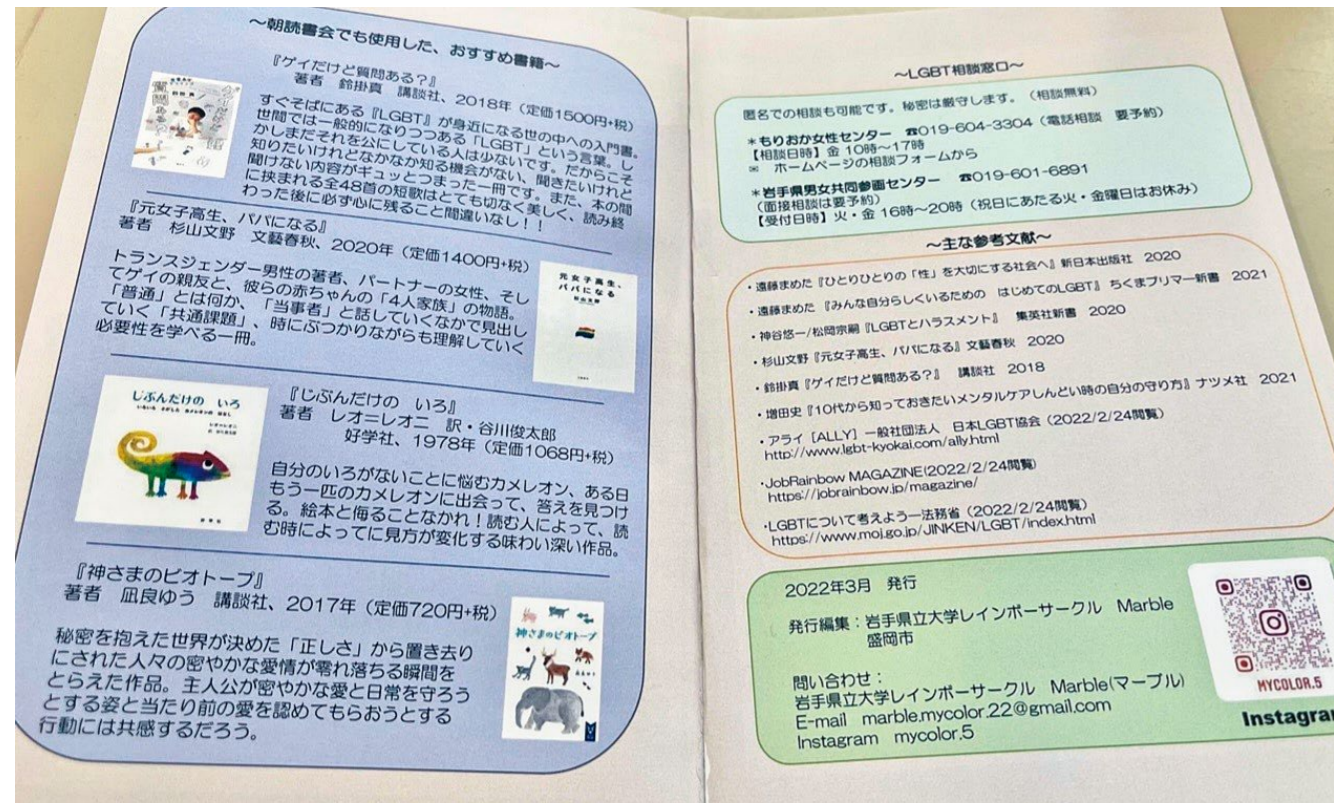
- ①差別的な「ことば」に対する注意喚起と差別用語を避ける具体例の提案。
- ②（当事者が望まぬ）アウティングの危険性について具

体的に分かりやすく伝えた。
③性的マイノリティを多様な個性の一つとして理解し、誰もが本来の性自認で過ごすことの大切さについて学べる文献等の紹介。

これらの成果から、性自認について悩む若者層を対象に、「ことば」を発信していく必要性が明らかになった。性自認や「性と生」を意識し始めた年齢層に向かって、大学生から、どのように他者の気持ちに寄り添ったらいいのか、もしくは抱えている個人の悩みをどのように他者に理解してもらえる「ことば」で表現すれば良いのかアドバイスしたいという新たな活動目標を見出すことができた。

コロナ禍で課外活動が制限されていた時期においても、オンライン上で関連他団体等と情報共有・オンライン交流等ができた意義は大きい。そして盛岡市男女共同参画室や「もりおか女性センター」との協働によって、市民の視線を重視しながら、幅広く発信できたことに改めて感謝したい。

今、私たちは「多様化する社会」ではなくマーブル柄のように「多様な社会」に生きている。社会が求める「あるべき姿」と「本当の自分」、もしくは「理想像」と「実像」の間には違いがある。その狭間で「生きづらさ」を感じている人が多いことを今回の事業から学んだ。「こうあるべき」の押し付け合いではなく、お互いを応援しあえるような社会を構築するために、私たちはこれからも考え続け、前進することで理解を深めていきたい。



制作したパンフレット



制作したパンフレット